

其の如くはるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に  
しるるを けりあるるに付てはるる多き程に

昔

大書

十

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

一 ありてはるるに付てはるる多き程に

書州志卷之六  
目錄

[illegible][illegible]



五月

内務

今月所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々

所下るる云々







一 梅のあけ  
花のあけは後始末のあけ

自らの心  
心をなやまして  
心をなやまして  
心をなやまして

一 春のあけ  
春のあけは春のあけ  
春のあけは春のあけ  
春のあけは春のあけ

一 夏のあけ  
夏のあけは夏のあけ  
夏のあけは夏のあけ  
夏のあけは夏のあけ

[illegible]

乙巳

松島

内閣

古之學者

吳昌碩

五石齋

ら  
た  
れ  
に  
お  
か  
し  
ま  
す

有之

李之玄

所為利於世者亦多矣

新學古之

言言皆自

修短壽夭之命

新女如女為全治之

此乃古今第一等書

卷之六

138

有之  
其  
事  
無  
今  
之  
也

劉子玄之詩



新古今集に在りし歌今下  
 へりて言ふ

[illegible][illegible]















心持して心をこめて  
心をこめて心をこめて  
心をこめて心をこめて  
心をこめて心をこめて  
心をこめて心をこめて

五月

廿八日

十一日

一 心持して心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて

一 竹田より小印清色を入  
一 現るる心持をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて

一 心持して心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて

一 心持して心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて  
一 心をこめて心をこめて





子月 亥

肉體

[illegible]

五

一、  
竹  
石  
山  
水  
畫  
卷

[illegible]

山家

長空雲去雁何如  
三月五日

石山先生之書

一、此書之體裁，  
 二、其筆法之精，  
 三、其字之大小，  
 四、其行氣之貫注，  
 五、其章法之整齊，  
 六、其墨色之濃淡，  
 七、其紙張之質地，  
 八、其裝裱之工巧，  
 九、其收藏之環境，  
 十、其傳世之真偽。

